〔畜産農家の声〕

私の職業は、・・・です。

和気町清水　好本　隆　さん
（備前県民局　畜産班）

＜はじめに＞

和気町清水は、中山サーキットが北に、備前市が南に隣接した地区です。農業の担い手不足で耕作放棄地が増加するなか、和牛の放牧を活用して地域に貢献している好本さんを今回ご紹介します。

＜私の職業は、・・・です＞

好本さんは、農家は農家でも畜産農家ではありません。水田は所有されていますが、稲作等の耕作はされていません。

現在、歯科技工士として、自営されています。では、なぜ今回「岡山畜産便り」に紹介されるのか不思議に思われる方もいるかもしれませんが、好本さんは早くから畜産農家と連携し、和牛を放牧して耕作放棄地の解消に取り組んでこられた畜産にかかわりのある方です。

耕作放棄地解消に取り組む好本さん

＜私も肉用牛農家です＞

一年のうち２５０日は、和牛の面倒を見ています。好本さんが和牛を扱うようになられたのは、平成１６年からです。放牧を始められたのは、遊休農地の雑草を処分している時、生産性がなく、無駄な労力を使っていることや、CO2 を排出して環境を破壊していると思われ、有効な雑草の処分方法がないかと関係機関に相談したところ、県の事業を紹介され、毎年継続して和牛を放牧されています。

自ら手綱を取り牛を移動させる好本さん

最初の年は、４３ａの耕作放棄地に県有牛２頭と放牧用資材一式を借り受けて、１ヵ月間実施されました。年を重ねる毎に好本さんが、地域のリーダーとして、自ら和牛放牧による耕作放棄地解消の重要性を水田所有者に訴えられ、和牛農家と耕種農家が連携した体制作りを推進し、地区内の放牧面積を拡大されてきました。現在は和牛繁殖農家と協定を結び、８１ａの放牧地に自ら牧草を栽培し、５月から１２月まで和牛を飼養されています。

＜放牧を通じて＞

当初は、脱走や臭いの心配があったそうですが、耕作放棄地が見事に綺麗になり、地域の景観保全になることや、間接的ではあるが畜産経営に寄与していること。牛のいる場所が、地域の癒しの風景になっていること、そして獣害軽減になっていることが、地域を巻き込んで、取り組んできた成果だと好本さんは実感されています。